

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：データと発見
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
 - ・後援：科学技術データ委員会CODATA、世界科学データシステムWDS、情報知識学会、科学技術振興機構、情報通信研究機構、日本原子力研究開発機構、日本学術振興会原子炉材料第122委員会、事業構想大学院大学、東京大学フューチャーセンター、日本経済新聞社
- 3 開催日時：平成24年9月10日（月） 13時00分～18時00分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨：

第4のパラダイムとして提案されているデータ科学の時代におけるデータリテラシー、情報環境価値創出についての現状について、講演とポスター発表を行い、パネル討論を通して科学技術データと社会との適正な関係についての課題と展望を明らかにする。
- 6 参加人数：

講演者等：16名
その他の参加者：約250名
- 7 特記事項：
 - ①事前の参加申し込みが広報開始直後から順調にあり、早めの募集定員超過となるなど、テーマへの関心の高さがうかがえた。
 - ②分野を超えて多方面からさまざまな意見が寄せられたことから、フォーラムの内容を内外に公表するとともに、「学術の動向」に掲載する検討を行うこととした。

また、CODATA（Committee on Data for Science and Technology）、WDS（World Data System）と連携して、「Data Science Journal」をプラットフォームにしたデータの時代への新たなデータ活動を展開することとした。品質の高い科学技術データの整備を基軸にしながら、時代の要請に応えるスピード感と利便性、そして個々のニーズやシーズに対応しての木目細かなデータ活用の範例を蓄積して、公共財としての科学技術データの共有と活用をはかってゆくこととした。